

各位

山形市野草園 : 平成29年5月1日
山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



—野草園のシンボルツリー「オオヤマザクラ」—

オオヤマザクラ(バラ科) 別名「ベニヤマザクラ」と言われる紅味の濃い花は径2~3cm。若い葉は赤い色をしています。夏には暗い緑色に変化します。秋には紅葉し、赤、黄色、橙色と様々な色を変えます。北海道~四国などに自生している野生の桜です。ヤマザクラに比べ花や葉が大きいことからこの名がつけられました。

(写真：昨年の様子ですが、今年は4/25から咲き始めました。)

山形市野草園は5月3日(水)から5月7日(日)までの5日間、『春の野草園まつり』を開催します。自然学習センター前の中央広場では、瀧山太鼓の演奏や餅つき体験、ミニ新幹線乗車、乗馬体験、いろいろな屋台(玉こん、揚げタコ、抹茶セット 他)など、子どもから年配の方まで十分に楽しめる催し物を用意しています。また、本園の看板植物の「ミズバショウ」や「ザゼンソウ」、「キタコブシ」などの花たちも綺麗に咲いて、皆さんをお待ちしています。他にもサクラやツツジの仲間の花たちが祭りを盛り上げるように咲いてくれることと思います。

このように野草園は春真っ盛り。どうぞ時間を作ってご来園ください。

*** 5月初旬から5月中旬までの野草園 ***

※ “春の野草園祭り”を中心に、催し物を紹介します。

【日付順にお知らせします】

春の野草園祭り…5月3日(水)～5月7日(日)の5日間

「ガイドウォーキング」… ※ 野草園祭りの期間中は毎日実施します ※

◇時間： ①回目 10:00～11:00 ②回目 11:00～12:00

③回目 13:00～14:00 ④回目 14:00～15:00 の4回実施します。

◇内容： 植物に詳しいスタッフが、お客様に園内の植物を説明しながら一緒に歩きます。植物を見る目が変わりますよ。(予約不要、無料)

◇5月いっぱい、毎週土・日曜日実施します。

◇6月、9月など来園者が多く見込まれる期間は、日曜日の他に土曜日にも実施する予定です。

◆5/3(水) ★餅振舞い ○ガイドウォーキング

《餅振舞い》…学習センター前の広場で、大曾根餅つき保存会による餅つきの実演、その後お餅を振る舞います。11:00～ 無くなり次第終了。

◆5/4(木) 一無料開放日一 (どなたでも入園料は無料です。)

★瀧山太鼓演奏 ○ガイドウォーキング

《瀧山太鼓演奏》…11:00～11:30 学習センター前の広場で瀧山太鼓保存会による勇壮な演奏を披露します。

◆5/5(金) ★乗馬体験 ★ウサギふれあいコーナー ○ガイドウォーキング

《乗馬体験》…子どもはポニーに、大人はサラブレッドに乗って広場のコーナーを一回りします。もちろん無料です。先着 100 名に整理券配布。

《ウサギふれあいコーナー》… 野草の丘前の広場。10:00～12:00、13:00～15:00

◆5/6(土) ★ミニ新幹線運行 ○ガイドウォーキング

《ミニ新幹線運行》…学習センター前の広場を一周します。付き添いの大人も乗車可能です。 11:00～12:00、13:00～15:00

◆5/7(日) ★乗馬体験 ★ミニ新幹線運行 ○ガイドウォーキング

《山野草販売》…4月29日(土)～5月7日(日)

《春の山野草展》…5月3日(水)～5月5日(金)

学習センター内に山野草の鉢植えを展示します。

《山形まるごと市(西藏王部会)》…5月3日(水)～5月5日(金)

料金所横で山形の特産品などを販売します。

◆5/10(水) ○四季観察会(西藏王の桜)…10:00～15:00 講師:志鎌節郎氏

野草園から羽竜沼までを散策します。電話申し込みにより先着 20 名。

資料代 100 円(入園料別)。持ち物:昼食、雨具。

◆5/13(土)～5/21(日) ○エビネ展…9:00～16:30

学習センターに色彩豊かなエビネ約 80 鉢を展示します。

◆5/20(土) ○エビネの育て方教室…10:00～12:00

講師: ガーデン・アベ 阿部悌二郎氏 内容: エビネの鉢植え(実技)

電話申し込みにより先着 15 名。材料代 1,300 円(入園料別)。

野草園の見ごろの花たち



ニリンソウ(キンポウゲ科)

道をはさんでウゼントリカブトの向かい側に咲いています。2個の花をつけることによる名ですが、1個のことも、3個のこともあるようです。白色の花は花弁状の萼片で、5～7枚あるようです。葉は3つに深く裂けていて、淡白色の斑点があります。



オオバナノエンレイソウ(シュロソウ科)

園内ではエンレイソウが最初、次に本種、最後はシロバナエンレイソウが咲きます。北海道に群落で自生します。大きな3枚の葉の上に白い花をつけますが、萼に相当する外花被片は緑色で、花弁に相当する白い内花被片はあまりとがりません。



ユキツバキ(ツバキ科)

東北地方から北陸地方の日本海側の多雪地に咲く常緑低木で、高さは2mほどになりますが、多雪地帯に適応したタイプで、幹は地をはい、平たい半球形の樹形を作ります。ヤブツバキと比べると、葉と花弁は質が薄く、花糸は黄色です。ツバキは咲き終わると、花全体が落ちてしまいます。



ハシリドコロ(ナス科)

葉と地下茎に猛毒を含み、これを食べると神経に作用して幻覚症状をおこして走りまわると言われていて、地下茎がオニドコロと似ていることにより名がつけられました。花は、つり鐘形で先は浅く5裂し内側が淡緑黄色で外側が暗紫色です。



ヤマウグイスカグラ(スイカズラ科)

山野に普通に生え、よく分枝して高さ約2mになります。花はやや曲がった漏斗状で先端は5つに裂けます。葉はこの後開き、長さ約5cmの楕円形です。初夏にグミに似た実が赤く熟し、とても甘くおいしいです。名は、古名ウグイスガクレの転訛と言われています。



キタコフシ(モクレン科)山野に自生する落葉高木。長い軟毛におおわれた花芽が割れ、白い花を枝いっぱいにつけます。特徴は、開花と同時に小形の葉が一枚顔を出す事です。和名の由来は秋に実る果実が「握りこぶし」に似ているからです。花は花弁が6枚で、香水の原料になるほどのさわやかな芳香を放ちます。



トガクシショウマ(メギ科)

長野県の戸隠山で発見されたのでこの名があります。別名はトガクシソウ。淡紫紅色の美しい花で、花弁に見えるのは萼片です。花弁は萼片よりはるかに小形で、6個が集まり鐘形となり雌しべと雄しべを囲んでいます。うつむいて咲く姿は、奥ゆかしい感じがします。日本固有の植物です。



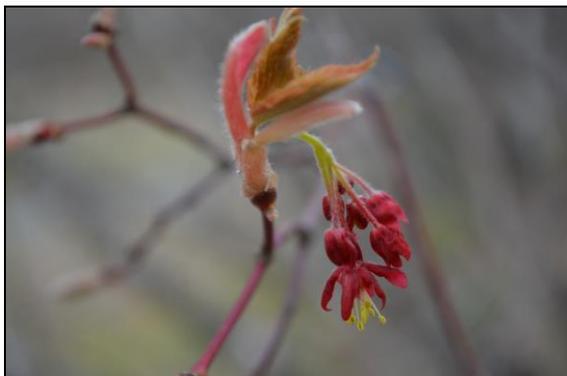
トウゴクマシグサ(サトイモ科)

テンナンショウ属は分類が難しいのですが、マムシグサ 1 種にまとめるという見解に従っています。葉は2個、小葉は長楕円形で7~9個つきます。仏炎苞は緑色~紫色、筒口部は少し曲がって耳状となっています。仏炎苞の中にある付属体は先端がまっすぐな棍棒状になるようです。



ミヤマカタバミ(カタバミ科)

山地の木陰などに生える多年草。普通に見られるカタバミは黄色い花をつけますが、本種は白い花をつけます。葉は角ばったハート形で3小葉からなります。花は5弁花で、花後さらに閉鎖花をつけよく結実します。名は深山に生えるカタバミの意味です。カタバミとは葉の一方が欠けているように見えることによります。



ハウチワカエデ(ムクロジ科)

樹高が5~15mに達する、紅葉が見事な樹木。花芽に白色の長軟毛を散生させます。花は房状の花を垂れ下げて咲かせ、紅紫色で雄花と両性花が混生しています。萼片は長さ6-7mmで暗紅色、花弁は萼片より短く淡黄色です。葉は対生し、伸展してくると、葉柄が葉身の半分以下ということが分かります。



シュンラン(ラン科)

単子葉植物で、土壤中に根を広げる地生蘭の代表的なものです。名称の由来は「春蘭」で、春に咲くことから。古くから親しまれてきた植物であり、ホクロ、ジジババ、山形でズドバなどの別名があります。



エンレイソウ(ユリ科)

単直立した茎の頂きに大きなまるみのあるひし形の葉を3枚輪生しています。その中心から出た花柄の先に、褐紫色と緑色のまじった小さな花を少し傾けてつけます。これは、萼に相当する外花被片で3枚あり、花弁はありませんが、しっかりと存在感があります。根茎を乾かしたものを延齡草根といい胃腸薬とします。



ナニワス(ジンチョウゲ科)

別名エゾオニシバリ。北海道と本州の主に日本海側の山地に生える雌雄異株の落葉小低木。花は枝先に集まってつきます。鬼を縛れるくらい強い茎を持っているのでこの名のようにです。花にはわずかに芳香があります。



フタバアオイ(ウマノスズクサ科)

茎は地をはってのび、先に2枚の葉をつけます。葉は少し狭いハート形で、茎の2本の根もとに紫褐色の花をつけます。どう見ても花とは思えないのですが、萼片がそりかえっておむすびのような形をした中に、雄しべと雌しべがついています。徳川家の家紋はこの葉をデザインしたと言われています。



オオカメノキ(レンブケノウ科)

名前からも葉に注目されがちですが、白い花もきれいです。花の中心部には両生花が集まり、そのまわりに白い装飾花がつきます。アジサイの仲間は、萼が変化したのですが、本種は花が変化したものです。名は、葉が大きな亀の甲羅に似ている事と、別名ムシカリは虫食われからという説があります。



オオイワウチワ(イワウメ科)

関東地方と東北地方南部に分布する常緑の多年草です。岩地に生え、うちわに似た葉は、質が厚く光沢があり、長さより幅が広いのが特徴です。葉の間から花茎を立て、淡紅色の花を1個つけます。



ヤブツバキ(ツバキ科)

日本に自生する種。葉の表面は光沢があります。離弁花ですが、花弁の付け根と雄蕊が合着しているため、花弁は1枚ずつ散らないで一花ごと落花します。本種の花糸は白くて合着しています。ユキツバキの花糸は黄色くてバラバラです。



イワナシ(ツツジ科)

常緑小低木で、本州、北海道の山地に生育。幹は分枝して地を這い、長さ 10~20 cm になります。葉はやや革質で、筒状鐘形の花は枝先に総状につきます。花の長さは 1~1.5cm ほどで、花筒の先は浅く五裂し、紅をさしたように赤みがあってかわいい花です。果実はナシの果肉に似て食べられます。



トウゴクサイシン(ウマノスズクサ科)

草丈 10~15cm の多年草。葉は茎の先に2個偽対生し、卵心形で長さ 5~8cm。先は尖り、基部は深い心形です。花は葉柄の間に1個つき、淡汚紅紫色で径 1~1.5cm。萼筒は円い壺形で、開口部は外径の 1/2 以上あり、萼裂片は斜上し、先端は鋭尖頭になっています。



タムシバ(モクレン科)

日本海側に多く、山形県の山地にも普通に自生しています。葉に先だってコブシに似た香りの良い花が咲きます。葉は裏が白っぽく、葉や枝をかむと甘みと香気があります。コブシと違って花の下に葉はありません。花弁は普通 6 個です。萼片は白色で 3 個あり小形の花弁のように見えます。名はカムシバの転訛ともいわれています。